平成12年(2000年)4月1日　第698号

世帯と人口

（3月1日現在）

世　帯	43,007	（＋13）
人　口	117,413人	（－29）
男	60,216人	（－12）
女	57,197人	（－17）

広報えびな

編集・発行
海老名市役所　広報広聴課
〒243－0492
神奈川県海老名市勝瀬175番地の1
☎（046）231・2111
URL http://www.city.ebina.kanagawa.jp
＊この広報は再生紙を使用しています。

すでに完成している「水の広場」では、わき水と戯れる親子連れの姿が…

21世紀へ前進する海老名⑮

北部公園潤すわき水

以前は市内で数カ所見ることのできたわき水。水道のなかった昔から人々の生活を支え、心を潤してきました。しかしこのわき水も時代が進むにつれて減少し、今では亀島自然公園(上今泉六丁目)のものが市内で唯一となってしまいました。ところで、そのわき水のほど近く、杉本小学校北側に、総面積約2・2㌶の規模を持つ北部公園が、来年春の全面オープンを目指して整備中ですが、この新しい公園では、わき水に重要な役割を与えています。

スポーツと憩いの拠点

北部公園は、北側の公園部分と南側のスポーツ施設の部分に分かれています。公園部分はすでに完成している「入口広場」「水の広場」などを含めた5つの広場で、また、スポーツ施設は現在整備中ですが、体育館とテニスコートで構成されています。

周辺の豊富な自然条件を効果的に生かしていることがこの公園の特徴で、その一つが亀島自然公園のわき水を引き込んだ「水の広場」。訪れた人たちが人工の川辺を歩いたり水に触れたりして、心をなごませることができる空間です。また、「水の広場」を流れ出たわき水は、その後体育館の地下ピットに蓄えられ、トイレの流水など施設の維持のために利用されます。

「一日平均500㌧もわき出ているこの水を上手に利用できないものか、という発想が出発点。試算してみると、トイレの流水に使うことで年間130万円程度の経費節減が見込まれました。このことから、〝憩いの水〟を生活用水として再利用すれば、わき水をいわば公園の〝血液〟として生かせることに気づきました」

と、公園建設担当職員。

この「水の広場」は、毎日多くの親子連れでにぎわっています。初めて訪れたお母さんの一人は、

「手に触れたこの流れが、海老名のわき水とは知りませんでした。このように地域の自然と共存した公共施設には、私たちも親しみを覚えます。今度はお父さんも連れて、家族全員で来ます」

と話していました。

――長い時を経ながらも流れ続けているわき水は、これからも多くの人たちの心を潤し、大切に利用されていくことでしょう。